6月議会の一般質問において

①生活保護の不正受給を根絶せよ。

「生活保護受給者がパチンコに通いづめであるが、我々の血税がそんなことにつぎ込まれるのは、心外である」という話をよく聞きますが、そのお怒りは当然です。

■1．まずは正当な受給者と悪質な受給者の分断を。

生活保護制度については、「受給要件を満たしているにも関わらず、受給できない生活困窮者の存在」「受給要件を満たしていないにも関わらず、不正に手当を受給している被保護者の存在」という、相反する側面を持つ二つの課題が存在します。

先進国にとって、生活保護制度はなくてはならないものです。しかし、この不公平なひずみが、「生活保護そのものが悪」という誤った風潮を招き、制度の存続そのものを危ぶめています。この不公平を何としてでも是正しなければなりません。しかし、生活保護制度の抜本解決は国の法律どころか憲法の改正さえ必要とされる可能性のあるハードルの極めて高い問題です。

だからといって、地方が手をこまねいていてはいけません。被保護者の最前線にいる市町村が「不正は許さない」という姿勢を保ち続けるためにも問題提起しました。

高石市は、生活保護の不正受給の実態、保護そのものの件数、保護実態の把握に不可欠なケースワーカーの過不足など、他の市町村よりも比較的問題視されるレベルには達していません（詳しくはブログをご覧ください）。

そもそも、不正受給とは所得を隠したり、収入が無申告であったりするケースを指します。つまり、被保護者からの自発的な申告が前提になっています。その実態を把握するためにケースワーカーが配置されていますが、彼らを欺く手段やノウハウがネット上に流れており、現場も相当な苦労を強いられています。

つまり、いくら高石市が不正受給が少ないといっても、それは氷山の一角であって、まだまだ海面下には大きな氷山が存在している可能性があるという現実を直視しなければなりません。海の下に潜んでいる不正受給を把握する体制をつくることがまずは必要です。

■2．頑張って働いて、馬鹿を見るような制度運用だけは断固として回避すべき。

なかでも、「血税がパチンコに使われている」というご意見をよく耳にします。もっともです。パチンコなどの娯楽そのものを禁止させることは相当難しいですが、店に入り浸っていたる状況や、パチンコで得る一時収入の無申告も、指導、監督の対象となり場合によっては保護の停廃止に繋がります。

パチンコ店などへの見廻り強化などの対策を講じるとともに、今迄目を向けていなかった不正受給を掘り起こしていかなければなりません。

また、年金受給者よりも生活保護者の方が収入が多いという現状もあります。医療扶助が大幅な原因ですが、「取りっぱぐれがないからといって悪徳な医者が必要以上の医療行為を提供するという現実」も問題視されています。このように生活保護制度を公平に運用していくためには、様々な角度からのアプローチが求められます。

今まで頑張ってまじめに働いて、年金を貰えるようになったら、生活保護の方が収入が多い、しかも不正に受給しているケースもある。こんなことが許されれば、誰もが働く意欲がなくなります。

国も制度改善に向けて動いていますが、地方で改善できることは全力で変えていかなければなりません。

6月議会の一般質問において

②通学校区の不公平の改善が急がれます。

高石市内の通学区域は約40年もの間、大幅な変遷はされていません。まちが変わっていくにつれて、生まれた不公平な区域を解消しなければなりません。

■1．主な事例を列挙すると･･･

1）加茂小学校区の加茂1丁目の南側。府営住宅周辺から加茂小学校への距離は約850m、高石小学校に通学するのであれば350mの距離で通学可能となり、最寄りに位置する高石小学校より2倍以上の距離をかけて通学しているという実態。

2）取石中学校区の西取石3丁目の西側。目の前に高石中学校があるのに、校区は取石中学校。申告すればどちらとも通学可能となっていますが、小学校が加茂小学校区なので、小学校生活を共に過ごした友達が取石中学校に通学してしまいます。そのため、最寄りの高石中学校より遠くの取石中学校を選択せざるを得ないという実態。

3）高石小学校区の千代田1、2丁目。高石小学校から高南中学校に進学する際に、高石中学校に通学する高師浜の友達と別れてしまう校区。少子化で児童数が減少している背景から高石小学校から高南中学校へ通学する生徒が少なくなっており、入学しても周りは知らない同年代の生徒ばかり。新しい中学校生活になかなかなじめないという実態。

■2．平成28年を目途に抜本的な校区編成を。

平成28年には南海本線が高架化され、都市計画道路も延伸され、高石の地図も大きく変わります。これを契機として、今から調査研究を進め、市民の意見を聴取していくべきです。

また、高石小学校区の千代田においては、一緒に進学できる友達が少なく、新しい中学生活で編成されたクラスに一人も知り合いがいないという問題が生じています。非常に多感な時期にこのような状態に陥っているのは早急に是正すべきです。また、中1問題が指摘されるなか、中学生活にスムーズに馴染むのを妨げる要因にもなっています。

抜本的に校区変遷を考えているのであれば、それまでの期間に調整校区を導入し、保護者の不安解消、子どもたちの学校生活の環境整備を真剣に考えていくべきです。

耐震化やICTなどのハード面での整備は整いました。これからはソフト面での充実に力を入れ、高石の教育力が向上することを望みます。